

「インクルーシブな学校運営モデル事業」教職員アンケート結果の概要

1 実施方法等

- 実施期日 令和6年9月
- Google Form
- 回収率 中高養64%、更農59%

2 「交流及び共同学習」に関する質問

- 中高養の肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率の範囲は65%～35%である。
- 更農の肯定的回答の比率の範囲は92%～31%である。
- 肯定的回答の比率に有意な差があると言えるのは16項目中1項目である。

質問	中高養	更農
I① 教師は事前に打ち合わせを行い、必要な情報を共有している。	54%	77%
I② 生徒本人、保護者〈家族〉の思いや願いを知り、反映させる工夫をしている。	65%	92%
I③ 生徒がお互いの状況について理解できるよう工夫している。 (その生徒の好きなこと、苦手なこと、コミュニケーションの方法、必要な支援や協力の仕方を事前に伝える、など)	57%	46%
II① 「交流及び共同学習」の目標は生徒の実態を踏まえて設定されている。(実態の共有、育成を目指す資質・能力の明確化)	52%	69%
II② 「交流及び共同学習」の目標の達成に最適化された指導計画となるよう工夫されている。(目標を目指す学習活動の設定、教育資源の活用、他教科領域との関連)	51%	62%
II③ 生徒が学習に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。(参加する場面の設定、授業の内容や方法の変更調整、等)	59%	77%
III① 生徒たちが、相互に協力しながら取り組めるよう工夫している。(ペア学習、グループ学習、等)	63%	62%
III② 障害のある生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。	59%	62%
III③ 生徒たちが理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。 ($p=0.027<0.05$)	60%	92%
III④ 生徒たちが、活動の中で自分に合ったやり方を考えたり選択したりできるよう工夫している。	57%	77%
III⑤ 生徒たちが自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。	65%	62%
IV① 教師、支援員、保護者等かかわる大人が、「交流及び共同学習」当日の役割を確認し、目標の達成に向けて取り組んでいる。	49%	38%
IV② 生徒たちが多様性を尊重する心を育むことができるよう、教師がお手本となることを意識して障害のある生徒とかかわっている。	62%	85%
V① 「交流及び共同学習」の後に、生徒たちがよかったことや感想等について振り返りができるよう工夫している。	52%	77%

V② 「交流及び共同学習」の授業・学習活動についての教師や生徒たちの振り返りを、次回の計画に活かしている。	48%	77%
V③ 「交流及び共同学習」をより充実させるために、間接的な交流に取り組んでいる。(手紙や学級便りを届ける、学校行事のお知らせや招待、等)	35%	31%

2 「モデル事業」に関する質問

- 中高養の肯定的回答の比率の範囲は83%～33%である。
- 更農の肯定的回答の比率の範囲は92%～23%である。
- 肯定的回答の比率に有意な差があると言えるのは14項目中2項目である。

質問	中高養	更農
① 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、お互いの生徒たちの理解が進むと思う。	59%	77%
② 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、豊かな人間関係を形成することができると思う。	59%	85%
③ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が主体的に関わる交流及び共同学習を行うことで、共に学ぶ喜びを感じることができると思う。	57%	77%
④ 異校種の教員間で授業観察や合同研修を行うことは、お互いの学校の理解が深まるとともに、教員としてのスキルアップにつながると思う。	71%	92%
⑤ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校において、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などについて、お互いに相談し合うことができると思う。	57%	85%
⑥ 各学校において、障がいのある生徒への支援の充実を図るためには、他校種の教職員と相談し合うことは効果的だと思う。	75%	92%
⑦ 将来、違う学校種で働く場合を考え、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などについて、身に付けておきたいと思う。	76%	92%
⑧ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒は、お互いを受け入れられないのではないかという不安がある。	33%	23%
⑨ 私は、障がいのある生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒の実態等に応じた教育活動を行っている。	83%	77%
⑩ 私は、生徒の資質・能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。	75%	62%
⑪ 校内委員会等（生徒の実態把握や支援内容の検討を行うための校内組織）で検討した内容が指導・支援に生かされている。(p=0.015<0.05)	48%	85%
⑫ 校内研修の内容が日々の実践に生かされている。	59%	85%
⑬ 保健・福祉等の関係機関との連携体制が構築されている。	60%	69%
⑭ 中札内高等養護学校は、地域においてセンター的機能を発揮している。 (p=0.033<0.05)	56%	23%

教職員アンケート「交流及び共同学習」（中高養）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

I① 教師は事前に打ち合わせを行い、必要な情報を共有している。

I② 生徒本人、保護者（家族）の思いや願いを知り、反映させる工夫をしている。

I③ 生徒がお互いの状況について理解できるよう工夫している。…

II① 「交流及び共同学習」の目標は生徒の実態を踏まえて設定されている。（実態の共有、育成を目指す…

II② 「交流及び共同学習」の目標の達成に最適化された指導計画となるよう工夫されている。（目標を目…

II③ 生徒が学習に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。（参加する場面の設定、授業の内容…

III① 生徒たちが、相互に協力しながら取り組めるよう工夫している。（ペア学習、グループ学習、等）

III② 障害のある生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。

III③ 生徒たちが理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。

III④ 生徒たちが、活動の中で自分に合ったやり方を考えたり選択したりできるよう工夫している。

III⑤ 生徒たちが自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。

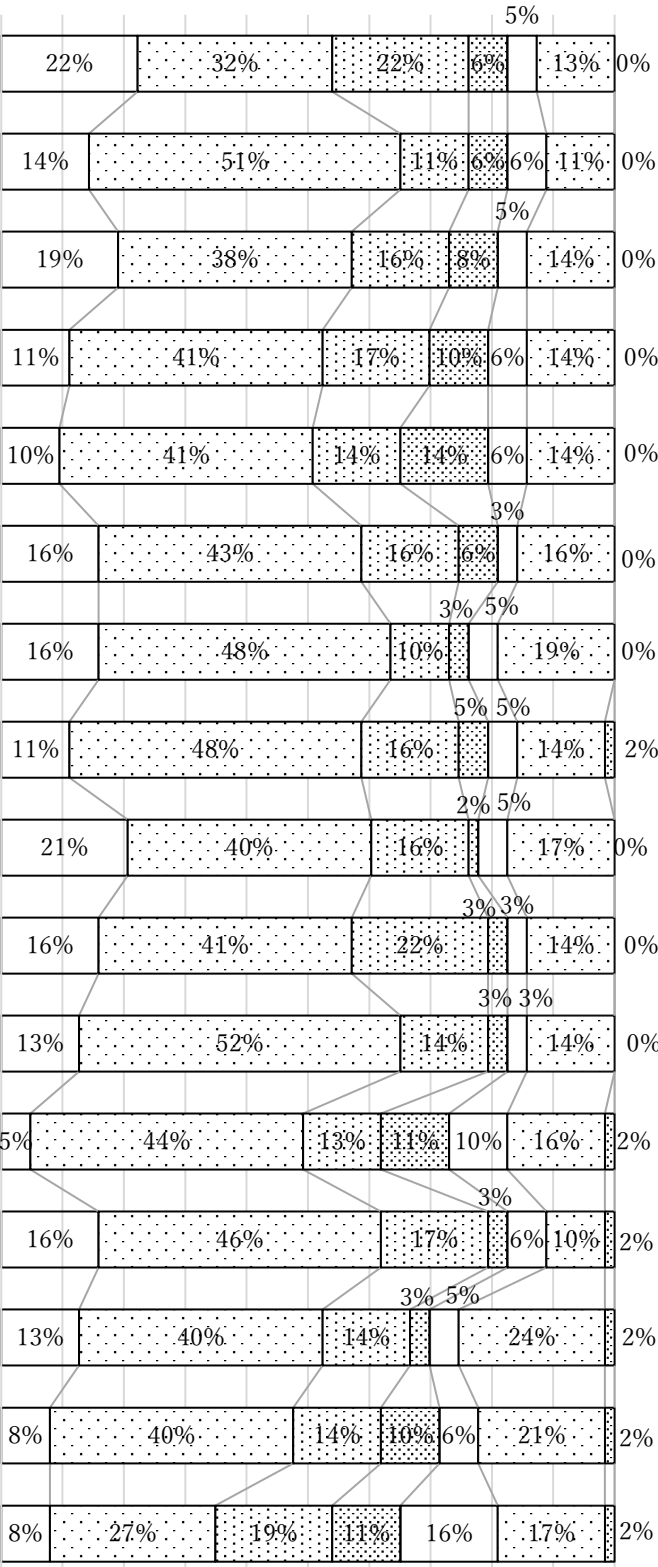
IV① 教師、支援員、保護者等かかわる大人が、「交流及び共同学習」当日の役割を確認し、目標の達成に…

IV② 生徒たちが多様性を尊重する心を育むことができるよう、教師がお手本となることを意識して障害の…

V① 「交流及び共同学習」の後に、生徒たちがよかったことや感想等について振り返りができるよう工夫…

V② 「交流及び共同学習」の授業・学習活動についての教師や生徒たちの振り返りを、次回の計画に活か…

V③ 「交流及び共同学習」をより充実させるために、間接的な交流に取り組んでいる。（手紙や学級便り…



☐ 当てはまる ☐ やや当てはまる ☐ どちらとも言えない ☐ あまり当てはまらない
☐ 当てはまらない ☐ わからない ☐ 無回答

教職員アンケート「モデル事業」（中高養）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

①中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、お互いの生徒たちの理解が進むと思う

②中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、豊かな人間関係を形成することがで…

③中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が主体的に関わる交流及び共同学習を行うことで、共に…

④異校種の教員間で授業観察や合同研修を行うことは、お互いの学校の理解が深まるとともに、教員と…

⑤中札内高等養護学校と更別農業高等学校において、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの…

⑥各学校において、障がいのある生徒への支援の充実を図るためには、他校種の教職員と相談し合うこと…

⑦将来、違う学校種で働く場合を考え、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などにつ…

⑧中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒は、お互いを受け入れられないのではないかと不安…

⑨私は、障がいのある生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒の実態等に応じた教育活動を行っている

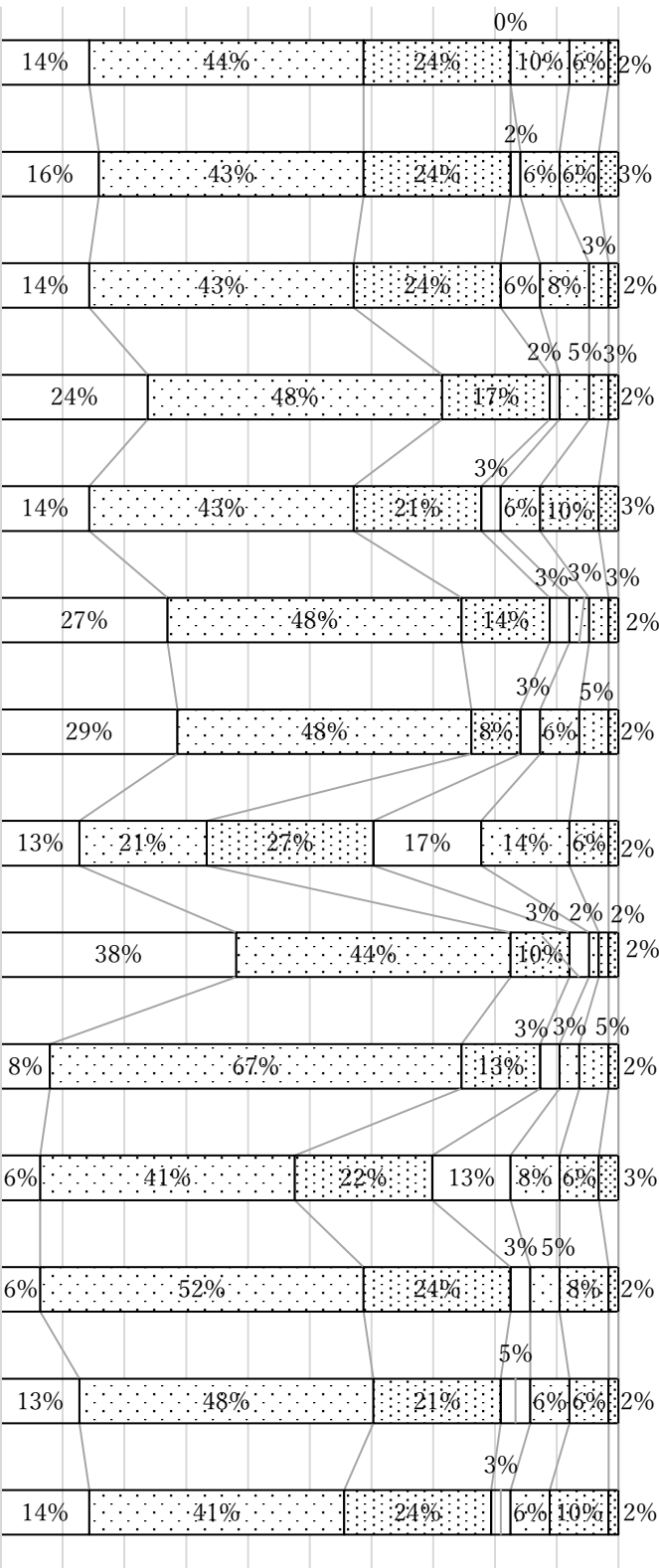
⑩私は、生徒の資質・能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている

⑪校内委員会等（生徒の実態把握や支援内容の検討を行うための校内組織）で検討した内容が指導・支援…

⑫校内研修の内容が日々の実践に生かされている

⑬保健・福祉等の関係機関との連携体制が構築されている

⑭中札内高等養護学校は、地域においてセンター的機能を発揮している



□当てはまる □やや当てはまる □どちらとも言えない □あまり当てはまらない
□当てはまらない □わからない □無回答

（自由記述）本モデル事業に期待していることや不安なこと
子どもたちのために、改善していけることをよく考えてまとめて実践していけると良い。
学校種が違うからできない、という固定観念にとらわれない取り組みができることに期待しています。同時に、自分を含め教職員がどこまで柔軟さを持つことができるかがやや不安です。
学校へ学びにきている子ども達と、授業は出ずに遊ぶ子ども達などなど…生徒達の目的がはっきりしていない。まずはこの現場の状況を改善するのが先ではないだろうか。それぞれ担当の先生は大変なご苦労を感じていると思う。平場で先生方が話し合う機会をもっと増やさなくてはと感じている。
学び方や生き方に関して生徒が選択、経験できる機会が増えることを期待している。一方、目的や取組など両校で情報を丁寧に共有しながら歩みを進めることを望む。
校内の状況が安心して教育活動を行える状況ではない中で校外のことまで考えることは難しいと思います。
社会経験の少なさがある生徒たちの体験が増えること
高等養護学校卒業生ということを職場や友人、恋人などに知らせる時の葛藤。 在学中から普通校との生徒の交流で生徒自身が考えるきっかけとならないかと思っています。
インクルーシブ事業に対する教員間の温度差について、どのように進んでいくのか
なかなか難しい
生徒が学び方を選択できる。教員も学び方の多様性を学ぶことができる。不安なことは、移動手段と時間。
現状の仕事量や生徒指導で疲弊している先生方が多い中でどんどん新たな取り組みが増えることに不安がある。まずは目の前の仕事に集中できる職場環境を再構築していかないと考えます。行事で慌ただしい中どんどん通常日課が減っていくのではないかとするとさらに不安定になる生徒が出てくるのではないかとします。 また、中には普通校の生徒に対する苦手意識を持って入学している生徒もいると思うのでどこまでできるのか…
更別の先生と交流することができたら。共同研修など。
交流時間を長めに設定できるとよいのでは。
交流したお互いの生徒の心に残るような時間になればと思います。
交流を通じて互いが刺激にほしい。
教師間で興味関心を持てているか。
未来志向な事業ではあると考えています。しかし、両校の職員一人一人が、十分に議論をし尽くして納得した上で進めていかないと、一部の職員だけの取組となりかねないと危惧しています（このタイミングで発言すべきではないのかもしれませんが…）
障害への理解が進むことを期待しています
授業だけではない、行事や部活動など生徒同士の関わりが自然に広がっていけばよいと思う。大きな壁は大人（教員）だと思う。「できない」「無理」と動き出すまえから決めつけてしまうのは大人。まずはやってみることが大事かなと思う。
わからないことが多いです
お互いの理解が深まることを期待します。

働き方改革とされているが、校内でもできていないうえに校内の問題も山積している中での実施に困惑し行く末に不安を感じています。

（自由記述）交流したお互いの生徒たちが、卒業後の社会生活でどのような姿を見せることを期待しますか
適切な支援を受けながら、社会的に自立して生活すること
笑顔で働いて幸せを築いていけるようになると良いと思います。
社会にはいろいろな人がいて、誰もが大切な存在である、という感覚を身に付け、自他を尊重できること。
相手のことを納得や共感はしなくても理解を示し、ほどよい距離感で同じ職場や地域で生活していけること
自分のできることを積極的に取り組み、楽しんで社会生活を送る姿
他人の価値観の受容
自分らしく生活してほしい。 困った時に相談できる人とつながってほしい。
周囲を尊重し合うこと、一緒に取り組めることの充実感を得ること
特性を活かした働き方で社会に貢献している姿。
障害を理解することで、気持ちの理解にもつながり互いのことを認め合える社会生活ができることを期待しています。
いろいろな人と関われる能力
進路指導を共有しあいたい。更別に行くメリットなどを共有できれば良いのではないかな。
助け合うこと。
自分の進路の実現と生き生きした生活を送っている姿を見たいと願っております。
互いの生徒がいろいろな人間がいること（多様性）を感じて社会に出てほしい。
交流の内容にもよりますが、障がいの有無によらず、お互いを理解しようという姿勢、協力する気持ちを持ち続けることができれば、どこでも活躍できるのではないかと考えます。
卒業後もつながっていて、ともに支え合える関係でいること
他者理解が深まり、卒業後の社会でいろんな人と関わっていくことができること
交流できてもできなくても、それぞれの良さが発揮できればいいなと思います
多様性を認めて、多くの人と協力し合いながら社会生活を営むことを期待します。
交流の有無関係なく、社会のマナーを守り、互いに困ったときには助け合う気持ちを持った。社会に貢献できる大人であることを期待しています。

教職員アンケート「交流及び共同学習」（更農）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

I① 教師は事前に打ち合わせを行い、必要な情報を共有している。

I② 生徒本人、保護者（家族）の思いや願いを知り、反映させる工夫をしている。

I③ 生徒がお互いの状況について理解できるよう工夫している。…

II① 「交流及び共同学習」の目標は生徒の実態を踏まえて設定されている。（実態の共有、育成を目指す…

II② 「交流及び共同学習」の目標の達成に最適化された指導計画となるよう工夫されている。（目標を目…

II③ 生徒が学習に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。（参加する場面の設定、授業の内容…

III① 生徒たちが、相互に協力しながら取り組めるよう工夫している。（ペア学習、グループ学習、等）

III② 障害のある生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。

III③ 生徒たちが理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。

III④ 生徒たちが、活動の中で自分に合ったやり方を考えたり選択したりできるよう工夫している。

III⑤ 生徒たちが自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。

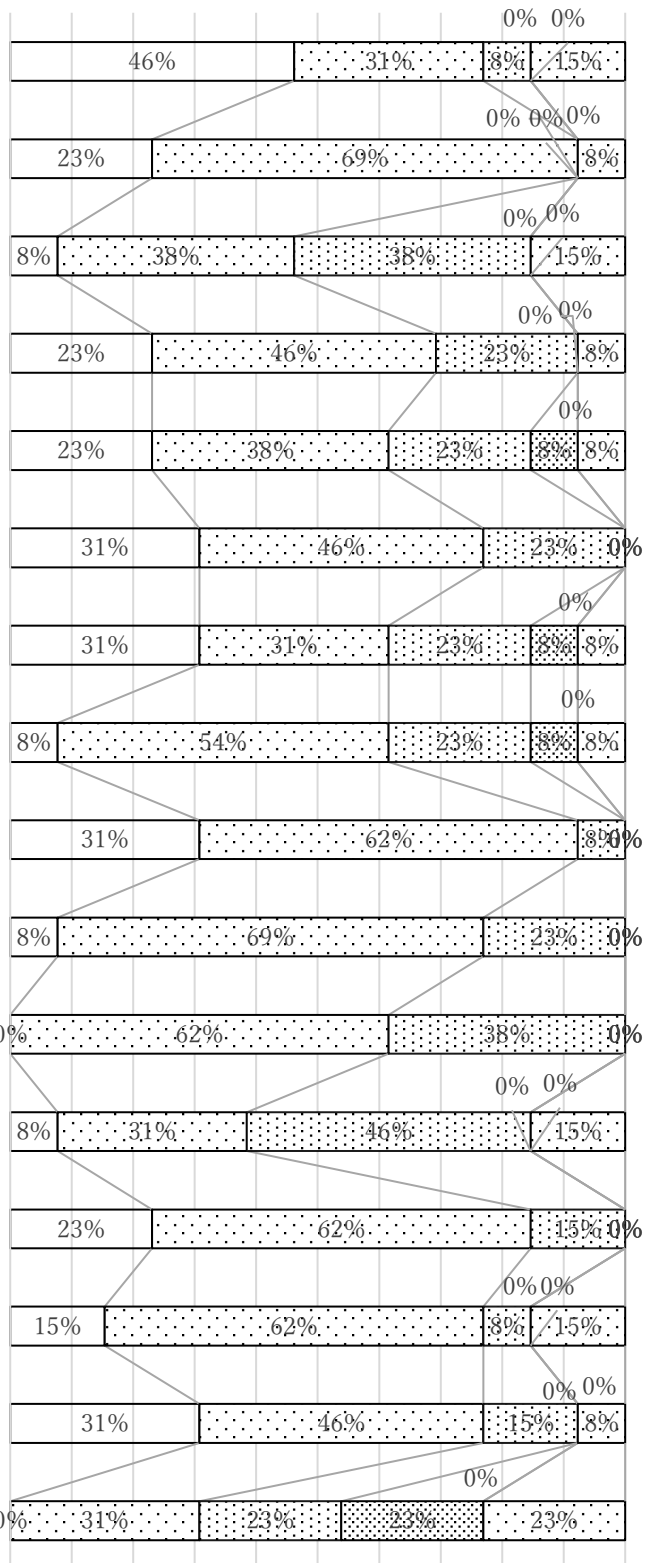
IV① 教師、支援員、保護者等かかわる大人が、「交流及び共同学習」当日の役割を確認し、目標の達成に…

IV② 生徒たちが多様性を尊重する心を育むことができるよう、教師がお手本となることを意識して障害の…

V① 「交流及び共同学習」の後に、生徒たちがよかったことや感想等について振り返りができるよう工夫…

V② 「交流及び共同学習」の授業・学習活動についての教師や生徒たちの振り返りを、次回の計画に活か…

V③ 「交流及び共同学習」をより充実させるために、間接的な交流に取り組んでいる。（手紙や学級便り…



□当てはまる

□やや当てはまる

□どちらともいえない

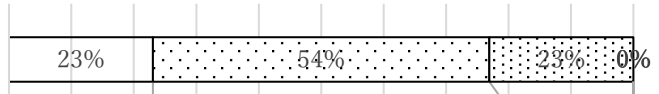
□あまり当てはまらない □当てはまらない

□わからない

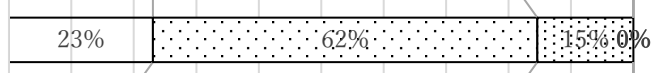
教職員アンケート『モデル事業』（更農）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

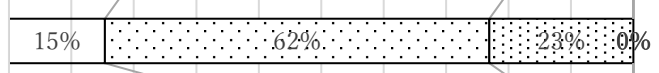
①中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、お互いの生徒たちの理解が進むと思う



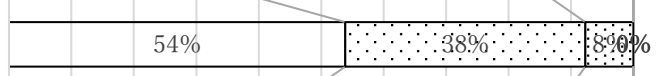
②中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、豊かな人間関係を形成することがで…



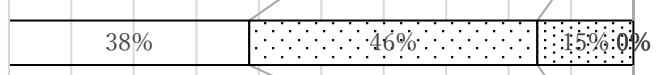
③中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が主体的に関わる交流及び共同学習を行うことで、共に…



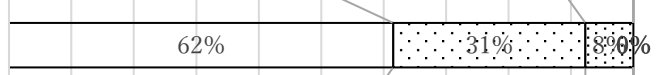
④異校種の教員間で授業観察や合同研修を行うことは、お互いの学校の理解が深まるとともに、教員と…



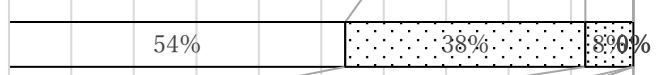
⑤中札内高等養護学校と更別農業高等学校において、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの…



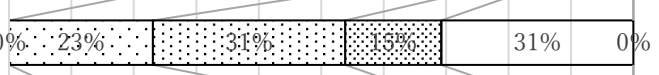
⑥各学校において、障がいのある生徒への支援の充実を図るためには、他校種の教職員と相談し合うこと…



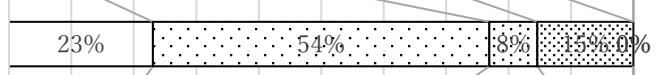
⑦将来、違う学校種で働く場合を考え、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などにつ…



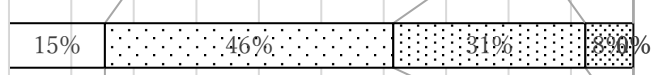
⑧中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒は、お互いを受け入れられないのではないかと不安…



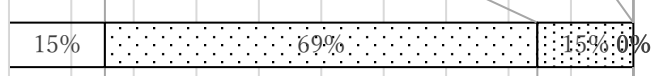
⑨私は、障がいのある生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒の実態等に応じた教育活動を行っている



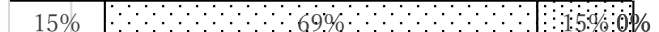
⑩私は、生徒の資質・能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている



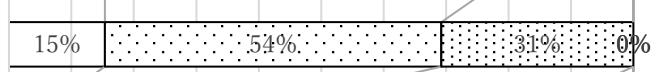
⑪校内委員会等（生徒の実態把握や支援内容の検討を行うための校内組織）で検討した内容が指導・支援…



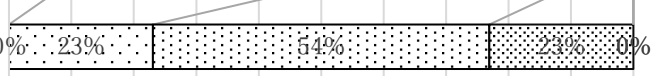
⑫校内研修の内容が日々の実践に生かされている



⑬保健・福祉等の関係機関との連携体制が構築されている



⑭中札内高等養護学校は、地域においてセンター的機能を発揮している



☐ 当てはまる ☐ やや当てはまる ☐ どちらともいえない
☒ あまり当てはまらない ☐ 当てはまらない ☐ わからない

（自由記述）本モデル事業に期待していることや不安なこと
時間的な余裕
やはり、ポジティブにお互いを認め、褒め、受け入れる関係を構築できるかということです。
どの範囲間まで、係わっていくのかといったイメージが個々に異なると思うので難しい。
教員の業務負担にならないか
具体的な交流内容と継続性
生徒を支援する人員の増員
障がいのある生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒への適切な指導を知りたい。一緒に実践してほしい。
今のところ、特にございません。
負担の増加。形骸化。

（自由記述）交流したお互いの生徒たちが、卒業後の社会生活でどのような姿を見せることを期待しますか
多様性を理解し、ソーシャル・インクルージョン的な人間関係を築くことができる
多様性の理解に基づいた、各々の生徒が持つ個性を育むということです。障害を持っていたとしても、各生徒の持っている可能性ははかり知れません。その生徒が持っている強みを発見し、自己肯定感を高めさせ、長所を伸ばす指導を心がける。（世界や日本の偉人でも、同様の例があるので）
生きがいをもって仕事、生活ができるようにさせたい
他者理解ができ、思いやりをもって接することができる姿
互いの性格を認め合い、うまくコミュニケーションをとる。
他者理解を深めて、未来の社会に適応できる姿
誰とでも分け隔て無く協力して物事を進められる人材になってほしいです。
安全に健康に仕事や社会生活を送ってくれることを望みます。
多種多様な他者を尊重し、社会の中で応援され、助けを得ながら活躍する人材となってほしい。
他者理解を深め、心の距離において歩み寄りのできる人間として活躍することを期待する。